

特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所 会誌



あんこう

第21号

平成30年9月発行

「あんこう」は、オオサンショウウオの当地方の呼び名です

巻 頭 言

オオサンショウウオあれこれ

広島県三段峡のオオサンショウウオ観察記録 _____ 1
理事長 岡田 純

「はんざき祭り」道中記 _____ 3
研究員 田口 勇輝

イラストスケッチ

ハンザキとの出会い その9 _____ 10
事務局員 田口 愛子

いき物あれこれ

幼少期の岡山での出会い _____ 11
事務局員 小林 弘幸

ハンザキ研あれこれ

ハンザキ図書館 _____ 12
事務局員 近藤 宏

ハンザキ研の平和橋 _____ 13
事務局員 吉賀 一弘

随想

山椒魚を詠う (2) _____ 16
会 員 杉本征之進

ハンザキの口の中 _____ 17
理 事 栃本 武良

イベント報告

30年度後半のイベント _____ 18
事務局員 奥藤 修

ハンザキ研日誌 2018年1月～6月 _____ 20

編集後記 (編集長 増子 善昭)

巻 頭 言

今年は7月の豪雨だけでなく、9月に相次いで通過した台風により、オオサンショウウオの産卵に影響があったのではと心配されました。幸い例年通りに複数の産卵巣穴で個体の集合が見られ、繁殖もうまくいった様子です。一方、ハンザキ研のマスコットの存在の「あんこう淵の黒主」（平和橋直下の巣穴）は、昨秋以来行方不明でしたが、あんこう淵から5 km 以上も離れた魚ヶ滝の下流で見つかりました（田口理事確認）。主不在のあんこう淵の巣穴には少し小ぶりの個体が入っており、新たな主になるかもしれません。黒主が流されたのか自ら下ったのか気になるのですが、新天地での動向は今後も追跡していきます。

発行が遅れましたが、あんこう 21 号をお届けします。田口理事と奥様の愛子さんの記事・イラストは、湯原のはんざき祭りにご一家で訪れた時の様子が詳しく紹介されており、「湯原のハンザキ」が地域の宝となってきていると改めて感じました。山車やねぶたの迫力は一見の価値があるのでまだの方はぜひ行ってみてください。私の広島県三段峡での観察記録も同様でこのようなオオサンショウウオを地域の宝として活用や保全を図る取り組みは今後も増えてほしいです。小林さんのイラスト付きの生き物との出会いは、幼少期の自然体験の大切さを教えてくれます。オオサンショウウオを育む自然を守り残していくためにもハンザキ研の活動は益々重要になると感じました。近藤さんのハンザキ図書館の活用は、今後ハンザキ研の大きな役割となり得るもので、文献や資料のリスト作りをさらに進めていきたいです。吉賀さんの平和橋の診断は、普段何気なく橋を通っていたので目から鱗が落ちる思いです。土砂が溜まったら掃除しようと思います。杉本さんの俳句は、詠まれた句の背景や想いを解説されているので、私のように俳句に疎くても楽しむことができました。翻訳版も作っていただければ俳句を通じて世界中の人にオオサンショウウオを知ってもらう切っ掛けになるかもしれません

会員の皆様のご支援・ご協力を引き続き賜りますようよろしくお願い致します。

平成 30 年 9 月

NPO法人 日本ハンザキ研究所
理事長 岡田 純

オオサンショウウオあれこれ

広島県三段峡のオオサンショウウオ観察記録

理事長 岡田 純

三段峡は、広島県柴木川にある峡谷で安芸太田町柴木から北広島町樽床ダムまで約12 kmに及ぶ。また、国の特別名勝に指定されており、西中国山地を代表する観光名所となっている。オオサンショウウオの生息情報は三段峡から少ないながら報告されているが（宇都宮・宇都宮、1998）、三段峡入り口の柴木から上流の樽床ダムまで高低差が約400 m（約330-730 m）もあり、滝や急流が点在するのでオオサンショウウオがどこまで分布しているのか不明である。2013年6月6日、三段峡の旅館に宿泊する機会があり、友人と河原を散策したところ、全長30 cm弱のオオサンショウウオを発見した（図1）。8月7日、8日にも同様の小さな個体、10月21日には全長50 cm程の個体が観察され（図2）、三段峡にオオサンショウウオが生息することが再確認できた。

2018年1月にとある研修会で三段峡から参加した方たちと出会った。三段峡の自然を活かしたエコツーリズムや環境教育の活動をされているNPO法人三段峡—太田川流域研究会（以降さんけんとする）の皆さんだ。三段峡はオオサンショウウオの重要な生息地であると思われるが、調査が為されていないこと、その源流域には小型サンショウウオが生息し、私は30年以上調査に通っていて三段峡と周辺の自然に特別な思い入れがあることなどをお話しし、再会を約束して別れた。そして2018年7月24日にさんけん代表の本宮炎さんの依頼でさんけん会員向けの観察会を実施することになった。当日昼前に現地入りし、明るいうちに三段峡入り口で観察場所の下見をした。峡谷より下流は川幅が広くゆっくり流れている（図3）。渇水期ながらも峡谷に入ると深淵と巨岩が織りなす景観が美しく、ハンザキ研のフィールドよりひと回りスケールが大きく感じる（図4）。昼食後、参加者と源流域に移動し、流水性サンショウウオの幼生（ヒダサン

ショウウオ、ブチサンショウウオ、ハコネサンショウウオ）を観察した（図5）。これら幼生3種の混生が観察されるのは中国山地に限られた地域のみである。参加者のほとんどは小型サンショウウオの幼生探しが初めてでやや興奮気味。最初は見つけにくかったが、目が慣れて来ると次々に全長5 cm程の幼生が見つかった。指先のツメの有無、その発達具合等を見て同定したところ、ヒダ、ハコネ、ブチの順で発見個体数が多かった。沢からの冷たい空気が心地よく、吹き出した汗がいつの間にか引き、もうしばらく現地に住たかったが、時間切れで再び三段峡へ。

趣のある三段峡ホテルでオオサンショウウオについてのレクチャー、入浴、野外で夕食（バーベキュー）の後、夜の川へ。今回の一番の目的であるオオサンショウウオの確認を試みるが、7月上旬の豪雨の影響なのか、川の水量が少ないせいなのか、姿がなかなか見えない。1時間ほど歩いてようやく石の下から全長30 cm程の幼体が姿を現した（図6）。待望のオオサンショウウオに一同歓喜するとともに実物を見てもらうことができ、とりあえず一安心。これを機に三段峡のシンボルとしてオオサンショウウオをより一層大切にしてほしいとお願いし、三段峡を後にした。さんけんは来年度から三段峡でオオサンショウウオの生息調査を計画中で当研究所も現地調査の支援をする予定である。

本稿をまとめるに当たり、三段峡での観察会について記事にすることを快諾していただいたNPO法人三段峡—太田川流域研究会の本宮炎氏、2013年に撮影したオオサンショウウオの写真を提供していただいた見澤康充博士、長尾新太氏、以上の皆様に心より御礼申し上げます。

文献

宇都宮妙子・宇都宮泰明（1998）広島県の両生類相調査・研究史 付 広島県の両生類目録。両生類誌 1: 1-12.



図 1. 2013 年 6 月 6 日に観察された個体
(撮影：見澤康充)



図 4. 三段峡入り口の淵の景観



図 2. 2013 年 10 月 21 に観察された個体
(撮影：長尾新太)



図 5. 小型サンショウウオの観察風景



図 3. 三段峡入り口上流方向の景観



図 6. 2018 年 7 月 24 日に観察された個体

オオサンショウウオあれこれ

「はんざき祭り」道中記

研究員 田口勇輝

むかしむかし、体長 10 メートルにもなる巨大ハンザキが湯原の川に棲みついでいて、川岸を歩く村人たちを次々に食べていった。その退治を買ってでた村の若人 三井彦四郎は短剣を懐に忍ばせ巨大ハンザキに挑むのであるが、他の村人と同様、あえなく巨大ハンザキに呑み込まれてしまう・・・、とそのとき、彦四郎は短剣でハンザキの腹を引き裂き、見事ハンザキ退治に成功したのであった！ ハッピーエンドかと思いきや、間もなく彦四郎は巨大ハンザキに祟られ亡くなってしまい、親戚も次々と祟られていく。その霊を鎮めるためにつくられたのがハンザキ大明神であり、毎年 8 月 8 日、はんざき祭りが行われるようになった、らしい。

なんとも理不尽な話だが、グイッと心ひかれる話でもある。火のない所に煙は立たぬ。もしかすると、豊かな川の生態系が豊富な餌資源をたたえていたころには、日本記録の 1.5 メートルを超す巨大ハンザキが本当に生息しえたのかもしれない・・・、そんな妄想も掻き立てられる。実際、全長 90 センチのハンザキが 50 センチの鹿の胎児を食べていた記録もある (Matsushita et al. 2015)。自らの大きさの半分以上ものサイズがある獲物を食べることができるハンザキは、ヒトの子どもであれば食べてしまう可能性もあるのではないだろうか・・・。

ハンザキ好きなら一度は訪れるべき聖地のひとつ、それが湯原温泉であり、“はんざき祭り”である。我が家の子どもたちは「サンちゃん祭り」と呼んで楽しみにしており、夏の家族旅行の地として、すっかり定着している。2018 年の夏、今年も妻と二人の子どもの家族 4 人で、8 月 7 日の前夜祭と 8 日の本祭に参加してきた。その道中記をまとめ、はんざき祭りの魅力をお伝えできればと思う。

さて、湯原温泉は岡山県真庭市湯原にある。

自家用車で向かうなら中国道の落合 JCT で米子自動車道に乗り換えて湯原 IC で降りると、あとは 10 分ほどで到着する。温泉街の入り口にはハンザキが描かれた湯原温泉の看板が立っており (写真 1)、今年もやってきたなという思いになった。黒をベースとした巨大な立て看板で、中央に湯原温泉の白文字があり、上部には赤丸の中に橙色のハンザキが描かれている。また下部にもハンザキの絵があり、「鯢」の文字がある。魚編に兜のような字で「はんざき」と読む。カッコいいデザインの看板だ。温泉街に進む川沿いの道を走っていると、右岸側の河原に桃色の巨大ハンザキが見えてくる (写真 2)。あまり目立たないため知る人ぞ知るという感じだろうが、10 メートル近くありそうなこのハンザキも見物と思う。

温泉街に入っていくと、はんざき祭りのポスターや半崎美子 (はんざきよしこ) さんののぼりがあちらこちらに上げられていた (写真 3)。ポスターには“はんざきねぶた”や“はんざき山車”の“太郎♂”と“花子♀”、“はんざき獅子舞”などの写真が所狭しと並んでいる。半崎美子さんはシンガーソングライターだが、たまたま、はんざきという名字から“はんざき小町”として 5 年前から参加されているようだ。昨年メジャーデビューされ、最近では E テレの童謡にも登場されているという。さらに温泉街に入っていくと、川沿いにある宿の「かじか荘」に行き着いた。昔ながらの宿で、気さくなおばちゃんとおじちゃんがお世話をしてくださる。毎年家族で宿泊している田口家は、2 階奥の広い家族部屋を使わせてもらっている。源泉かけ流しの家族風呂があるのも魅力の一つだし、おばちゃんの料理が素朴だけど、とっても美味しいのが大きな魅力！

夕日が落ちると、一気にお祭りの雰囲気が出てきた。道沿いには所々に灯籠があるが、ハンザキが描かれたものもある (写真 4)。川沿いの広場には、正面に舞台が設置され、左右には、

はんぎき山車の太郎と花子が並ぶ(写真 5)。屋台のテントがいくつも立ち並び、チキンナゲットやポテト、焼きそばなどが売られ、金魚すくいの代わりにスーパーボールすくいの店があった。お楽しみ抽選会の番号が書かれた金券を買って、屋台を回る。金券(写真 6)やチキンナゲットの看板(写真 7)にも、ハンザキが描かれていた。ボールすくいの網“ポイ”は、子ども用に頑丈に作られているもので、2 歳児の娘が使ってもなかなか破れず、二人ともたくさんのボールをゲットできた。吉本の芸人が面白おかしく司会を務めたお楽しみ抽選会(一等は USJ のペアチケット!)は、残念ながら我が家に当選はせず、ハンザキの女神がほほ笑むことはなかった。

さて、本祭のある 8 月 8 日。お祭りがある夜まではゆっくり温泉街をぶらぶら歩こうということになった。街の何か所にも、湯原温泉郷の案内看板(まち歩きさんぽ道)(写真 8)があり、街の魅力が描かれている。まずは、「湯原温泉ミュージアム」を訪れた。川沿いのメインロードから少し中に入ったところで、湯原温泉にはもう何度も来ているのに、初めて足を運んだ。建物の前に「イモリとオオサンショウウオ」のガチャガチャを発見した。たしか数年前?にいろいろなところで見えた気がするが、まだ残っていたとは。子どもたちと一緒に一回ずつガチャガチャを回すが、こちらも残念賞でハンザキは当たらず、イモリが 3 つだった。建物の中に入ると、ハンザキグッズがいろいろ並んでいた。UV レジン製のストラップ(写真 9)、T シャツ(写真 10)、サブレ、チョコ(写真 11)、箸置き(写真 12)、コースター(写真 13)、ストラップ(写真 14)、エコたわし(写真 15)、小物入れ(写真 16)、こいのぼりなどなど、かなりのラインナップだ。こいのぼりは色違いで 8 色もあった(写真 17)。今年は何を買おうかと迷いながら奥に入ると、ゲームセンターのような、なにやら賑やかな電子音が聞こえてくる。そこにあったの

は、なんと“はんぎきたたき”であった! 昔に流行ったワニワニパニックを改造したもので、おそらく、この 1 点ものだと思う(写真 18)。台の上には 5 つの巣穴があり、それぞれの奥からハンザキが頭を出し、それを叩いてやっつける設定だ。4 歳児の息子は初めての経験であり、おぼつかない手さばきで何とか 38 叩きの成績を上げた。次は、私の番だ。息子にいいところを見せようと本気を出し、ほとんどノーミスで叩いていく。60 叩きの結果に、子どもたちへ向けてどや顔をした瞬間、はんぎきたたきがステージ 2 に移行した。ものすごい速さで連続的にはんぎきが頭を出し、到底すべてを叩くことはできなくなる。全力で叩きまくっていると、娘が急に泣き出してしまった! よほど父親の形相が怖かったのかもしれない……。一連の様子はスマホの動画に収めているが、ここで紹介できないのが残念だ。なお、その部屋にはハンザキの本がいろいろと置かれていて、福田幸弘さんの写真絵本「オオサンショウウオ」(福田 2014)、童話「たったひとつの(えざき 2007)」や「ピコのそうじとうばん(阿部 2013)」、「ミドリのおオオサンショウウオサンちゃん(夢たまご実行委員会 2011)」、「ザキはん(U-suke 2017)」、ハンザキの特集が組まれた号の情報雑誌「ひととき(ウェッジ 2017)」などがズラッと並んでいた。ザキはんは、湯原温泉に住むハンザキ「ザキはん」の純愛物語で、本とともに T シャツやストラップもあった。

湯原温泉ミュージアムを出て、湯原温泉郷の看板に書かれてあった、とある松を探して歩いた。看板によると、それは石川千代松と呼ばれ、道路で頭上を横断する松で、樹齢およそ 200 年とされる。石川千代松というと、東京帝国大学の先生で、この湯原の地でオオサンショウウオの先駆的な研究をされた方だ。なんと魅力的な松があるのだろうと探し歩くが、地図に書かれた場所を探しても、なかなかその松を探し当てることはできなかった。結局、近くの酒屋さん

で尋ねた結果、数年前に切られてしまったとのこと。大変残念だった。

温泉街の中心には「湯本足湯」があり、ヘチマ？をもち帽子をかぶったハンザキの石碑が置かれている。そこに表示されているお手洗いの標識にも、ハンザキが描かれていた(写真 19)。また、こことは別に、中心から少し離れたところに「湯ったり広場」があり、「はんざき足湯」と呼ばれる足湯がある。足湯の横には 2 メートルほどの大ハンザキの石像があり、とりあえず息子は馬乗りになっていた(写真 20)。足湯の先客にいられていた釜谷さんご一家とは、以前、日本オオサンショウウオの会でお会いしていて、偶然再会することになった(写真 21)。まだ小学生の娘さんは最近ハンザキにハマっているようで、バッチリとはんざき祭りの T シャツを着こなしていた。将来有望なハンザキガールの一人だと感じ、こういった再会は本当に嬉しくなる。足湯は熱めのお湯で、少ししたら足が真っ赤になるほどだが、不思議なほど足が軽くなって疲れが吹き飛んでしまう、お勧めの場所だ。

お昼は温泉街にあるパン屋で食べることにした。オシャレなパン屋さんで、美味しそうなパンが並んでいた。だが、目がいったのは、一緒に売られていた「はんざきクッキー」のほう。プレーン(写真 22)と抹茶(写真 23)があり、かわいらしいデザインのクッキーだった。なお上述した U-suke さんの「ザキはんクッキー」も購入して食べた。湯原温泉産の米粉を使用して、東京の人気スイーツ店が作ったグルテンフリーのクッキーで、ヴィーガンクッキーとも書かれ、小麦・卵・牛乳不使用とのこと。U-suke さんから伺った習わしに沿って、まずはクッキーを半裂きにしてから美味しくいただいた(写真 24)。

お昼を食べた後、はんざきセンター(写真 25)に行く予定だったが、体調が優れなかったため温泉 2 階の休憩室で 2 時間ほど休憩することになった。家族 4 人が畳にゴロンと転がり、昼寝をしてはんざき祭りまで体調を整えた。はんざ

きセンターは石川千代松の資料が展示されていたり、生体のハンザキが飼育されていたりする。最近リニューアルされたのだが、桑原さん(現：日本オオサンショウウオの会会長)のご尽力もあって、素晴らしい施設に生まれ変わったと感じる。リニューアル後に、ハンザキの標本や研究史のパネル、芸術家の三澤はじめさんが作られたハンザキの産卵行動のジオラマ(写真 26)など、とても見ごたえのある施設になった。湯原温泉の四季の魅力が編集された動画を見ることのできるスペースもある。美しい桜の舞う季節や、色とりどりの紅葉が山々を彩る季節、雪化粧のなかでの温泉街なども紹介されており、はんざき祭りが開催される夏だけでなく、ほかの季節にも訪れてみたい気持ちになった。

16 時から、はんざきセンター横にある「はんざき大明神」で祭礼がおこなわれる。なぜか神主さんとお坊さんの両方がお祈りをする、神仏習合の日本らしい様子に、失敬ながら可笑しくなってしまう。

18 時になると、はんざきセンター横の広場から、はんざき山車の太郎と花子が出発する。体力を温存し、ここには何とか間に合うことができた。太郎はこげ茶いろをした体色で、頭部のイボも強調されており、岩場に体を巻き付けた様子が本当にカッコいい！(写真 27) 花子は太郎よりも赤みを帯びた褐色の地色で、頭部のイボは目立たない。烏帽子をかぶっていて、周りには提灯が吊るされているところから、はんざきの女神様といった感じだろうか(写真 28)。地元の子どもたちが山車の紐を引っ張って、街のなかを練り歩くのだが、今年は一緒に山車を引っ張りたいと息子が意欲を示していて、それが実現した。しかも、たまたま待っていた場所が良い場所で、なんと先頭で山車を引っ張ることができた。息子はやや緊張した面持ちで先頭役を務めていたが、内心はきっと意気揚々としていたに違いない(写真 29)。太郎と花子に続いて、はんざき音頭のお囃子が、はんざき柄の

浴衣をきた街の人たちを引き連れて「ゆばあら～湯の街、ゆばら湯の街い花盛り、あらよいこらよいこらよいこらさあっさあ～、どっこいなー♪」とお祭り特有の楽しい空気をつくりだしてくれる。

メイン会場までくると、すっかり辺りは薄暗くなってきた。前夜祭にはなかったたくさんの出店が色とりどりの看板を掲げて、お祭りムードが高まってくる。しばらくして、はんざきねぶたがやってきた！ はんざきねぶたは第 50 回を記念して作られた壮大なもので、赤や黄色などの体色をしたハンザキが、ねぶたならではの煌びやかさを放っている。口を大きく開け、左前肢を持ち上げた様子は、ハンザキ好きでなくてもたまらない魅力を感じるだろう（写真 30）。ねぶたの上からは、ときどきお菓子がばらまかれ、子どもたちが奇声を発しながら落ちてきたお菓子を拾っていた。はんざき獅子舞と太鼓衆の皆さんが軽快なリズムと掛け声を上げ、ねぶたを先導した。ちなみに、去年、はんざき獅子舞に突然かまれて大泣きした娘花子は、今年はけっして近づこうとしなかった。

はんざき祭りが終わりに差し掛かると花火大会がおこなわれる。会場近くのダムの前から打ち上げられる花火は真っ暗な空を彩り、大きな音が温泉街の谷に響きわたる。すぐ前を流れる川にも花火の光が反射して、幻想的な雰囲気に包まれた。

屋台とは少し離れたところに「はんざき展示ブース」がおかれ、ハンザキの紹介パネルや、はんざき調査隊で採捕された個体を見ることができた。数年前から、はんざき祭りのときに、地元メンバーではんざき調査隊が結成され、すぐ近くの支流を夜間踏査している。これも桑原さんがリードされていて、桑原さんのフットワークの軽さと熱意が着実に実を結んでいるように感じた。川の生きものも展示されていたが、やはり生きたハンザキに人だかりができていて、こういうのを見ると嬉しくなる。また、展示ブ

ースでは、三澤はじめさん作品が並べられ、リアルかつ可愛い作品に多くの人が見入っていた。翌日は仕事があり、はんざき祭りが終わってすぐ広島へ帰らなければいけなかったが、帰りの車の中で「サンちゃん祭り楽しかったね！」と繰り返す息子に、また来年行こうと何度も返事をした。最近、片言の会話を話し始めたばかりの娘も、まだ少ない語彙の中に「サンしゃんまつり」が加わった。来年も家族で楽しみたいと思う。



写真 1. 湯原温泉街入口の巨大な立看板。



写真 2. 湯原温泉街に入っすぐの川岸にある巨大ハンザキ。



写真 3.
半崎美子さんののぼり。



写真 4.
灯籠の下に描かれた
ハンザキ。



写真 5. はんざき祭りのメイン会場. 正面舞台の左右に太郎 (左) と花子 (右) が並ぶ.



写真 11. はんざきサブレ・はんざきちよこ.



写真 6. 屋台の金券にはんざき.



写真 7. 屋台で売られていたチキンナゲットの看板にも



写真 12. はんざき箸置き.



写真 8. 湯原温泉郷のまち歩きマップ.



写真 13. はんざきコースター.



写真 9. ハンザキストラップ.



写真 10. ハンザキTシャツ.



写真 14. はんざきストラップ.



写真 15. ハンザキエコたわし.



写真 16. ハンザキ小物入れ.



写真 20. はんざき足湯の大ハンザキに馬乗り.



写真 17. 8色あるハンザキこいのぼり.



写真 21. はんざき足湯の先客にいられていた釜谷さんご一家（ハンザキ研の会員）と.



写真 18. 世界で一つ!？の「ハンザキたたき」.



写真 22. はんざきクッキー（プレーン）、 23（抹茶）.



写真 19. 足湯のハンザキ・お手洗いの表示にも.



写真 24. ザキはんクッキーを半裂きにしてから美味しくいただいた.



写真 25. 2017 年にリニューアルされた「オオサンショウウオ保護センター」.



写真 29. ハンザキ山車を引っ張る息子.



写真 26. オオサンショウウオ保護センターに展示されている、ハンザキの産卵行動のジオラマ (三澤はじめさん作).



写真 30. きらびやかで雄大な「はんざきねぶた」.



写真 27. ハンザキ山車の「はんざき太郎」.



写真 28. ハンザキ山車の「はんざき花子」.

参考文献：

- 阿部夏丸 (2013) ピコのそうじとうばん. 講談社, 東京
- えざきみつる (2007) たったひとつの. あすなろ書房, 東京
- 福田幸広 (2014) オオサンショウウオ. そうえん社, 東京
- Matsushita Y, Yamakawa O, Onuma H, Nishikawa K, Motokawa M, Yato T (2015) ANDRIAS JAPONICUS (Japanese Giant Salamander). DIET. Herpetological Review, 46(1): 69-70.
- U-suke (2017) ザキはん. 扶桑社, 東京
- ウェッジ(2017)ひととき. 2017年7月号. ウェッジ, 東京
- 夢たまご実行委員会 (2011) ミドリのオオサンショウウオサンちゃん. 夢たまご実行委員会, 広島

生き物あれこれ

幼少期の岡山での出会い

事務局員 小林弘幸

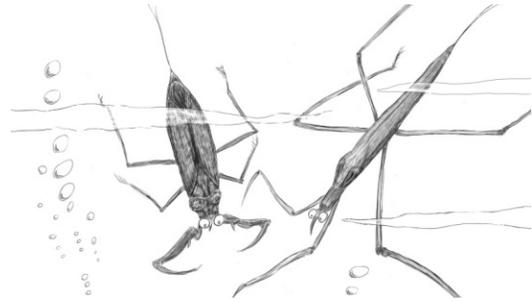
小学生の頃、ずいぶんと昆虫採集に勤しんだが、特に岡山県では、僕が住んでいた街では見られなかった昆虫との出会いがあった。

ある夏休みの早朝、高梁市にある父の実家で、祖父が庭先でタガメを拾って来た。それまで図鑑でしか見たことのないタガメを初めて目の当たりにした僕は、とても興奮した。祖父はおそらく夜のうちに街灯に飛んで来たのだろうと言った。早速そのタガメをケースに入れて飼育を試みたが、残念ながら 2 日目には死んでしまった。それからしばらくして、今度は母の実家のある真庭市でタガメと出会った。稲刈りも終わった秋の頃、あぜ道を這っているタガメを見つけた。水中にいるタガメが這いずり廻る姿を見て僕は驚いたのだった。当時、この辺りにはタガメはたくさんいたみたいだが、地元の人によれば近年はすっかり見なくなったという。もし機会があればじっくりとタガメを探してみたいと思っている。



水生昆虫と言えば、ミズカマキリとタイコウチもよく見かけた。父の実家の近くに幼稚園があり、夏休みにはプールが解放され、誰でも利用出来た。当然僕も泳ぎに行ったのだが、その時には必ずと言っていいほどいた。最初はとても喜んでしたが、毎年たくさんいるので、そのうち珍しくもなくなってしまった。今思えば水

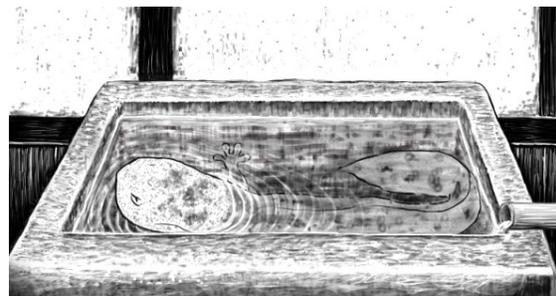
生昆虫と一緒に泳ぐのも、なかなかいい体験だった。



そういえば、オオクワガタを初めて見たのも岡山だった。林道を歩いている時に、偶然目の前に落ちてきたのだった。今では野生のオオクワガタを見つけるのは難しいが、当時の岡山には結構いたのかも知れない。



ちなみに昆虫ではないが、オオサンショウウオを初めて見たのも真庭市。温泉街の通りで、貯水槽のようなものに入れられていた。幼い頃の話なので詳細は不明だが、巨大なハンザキの迫力に圧倒されたのは痛烈に覚えている。



イラスト：小林弘幸

ハンザキ研あれこれ

ハンザキ図書館

事務局員 近藤 宏

先ごろからハンザキ研究所の玄関？に本棚が増えている。栃本所長に尋ねると約3800冊の寄付があったそうだ。以前からある栃本所長の蔵書を加えるとかなりの数になる。生野支所の2Fにある図書館分室より明らかに多いと思う。マンガの棚を見てみると高橋葉介・島本和彦・大友克洋など80年代のニューウェーブコミックが多いのが嬉しい。以前処分したトニーたけざき著「岸和田博士の科学的愛情」や小林誠著「ドラゴンズヘブン」に再会できるとは思わなかった。ハンザキ研周辺のキノコ調査をされている宇那木先生より寄付して頂いたキノコ関係の書籍は門外漢の私でも興味をそそられるタイトルが多かった。

公立の図書館では蔵書は広く浅く公平に揃えられる。また書庫に物理的限界があり、古い蔵書は処分されることがある。ところがハンザキ図書館（仮称）は自然科学に特化、古い本も保管されている。貴重な専門書とコミック本が同じように並んでいるのを見ると、何でも喰いつくハンザキの研究所らしいではないか。

公開見学日に訪問してくれる人に蔵書を貸し出し、次回の公開日に返却してもらいリピータになってもらう等活用方法を考えていきたいが、残念ながらこちらの蔵書はリスト化されていない。まずは蔵書をリスト化（タイトル・著者・出版社等）し現状把握に努めたい。

リブライズという本を管理するツールやサーバを提供している合同会社がある。本好きな個人が自宅を図書館として開放し、人々が本をきっかけにつながる場を作るために活動している。営利団体のため無償でサービスを利用はできないが、フリープラン（登録蔵書等に制限がある）

を利用すればバーコードリーダーを利用し蔵書をデータ化クラウドに保存もできる。

リブライズの HP では本好きな人たちのために私設図書館を検索できるようにしてある。ハンザキ図書館がリブライズを利用すればハンザキ研究所もこの恩恵にあずかれる。今までにないアプローチだが効果は期待できる。本をきっかけに自然好きな人達がハンザキ研究所で集まりつながっていく。そんなことを考えながら本を整理している。



写真 1. 図書室。何冊保管されているのか？

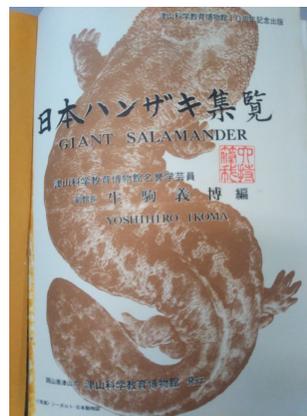


写真 2. 日本ハンザキ集覧 1973 年 超貴重本！
過去の論文をまとめたものシーボルトの論文も読める



写真 3. 余った部材で本棚を増設中

ハンザキ研あれこれ

ハンザキ研の平和橋

事務局員 吉賀一弘

ハンザキ研を訪れる際、誰もが必ず通る場所があります。ハンザキ研のすぐそばを流れる市川を跨ぎ、国道とハンザキ研をつなぐ橋「平和橋（へいわばし）」です。1966年の8月に竣工され、52年もの長きに渡って人々に供用されている立派な橋です。



写真 1 平和橋 側面全景



写真 2-3 橋梁名と竣工年を記したプレート

私は橋梁や砂防堰堤などの土木構造物を点検する仕事に就いています。職業柄、視界に入った構造物に損傷があるのかどうかつつい気になって注視してしまいます。

ハンザキ研の目の前に架かる「平和橋」ですが、初めて訪れた時から損傷具合はどの程度なのか

気になっていました。

5 月末の総会に参加した際、橋全体を見ることができたので簡単にまとめてみようと思います。

（※実際の点検作業では目視だけではなく点検用工具やレーダーを用います。今回はあくまで目で見た範囲の所見になります。）

まずは桁上面（路面）についてです。

橋の幅員は乗用車 1 台が通れる程度で決して広くはありませんが舗装に隆起や陥没は見られず、通行に支障はありません。しかし路面の端に広範囲の土砂堆積を確認しました。（写真 4 の赤囲み部分参照）

この土砂が排水柵（雨水などを路面から橋の下へ逃がす役割を担う部材）に詰まっており排水機能の低下が発生していました。また、この詰まっていた土砂が影響して桁下面にある問題が発生していました（後述）

排水機能の低下は路面の変状や金属部材の腐食を引き起こします。とりあえず応急処置として排水柵を詰まらせている土砂のみ撤去しましたが、長期維持を考え定期的に路面の清掃を行うのが良いと思いました。



写真 4 平和橋 路面全景（国道側より）

次は桁下面と下部構造についてです。
 普段からハンザキ研に出入りしている人でも桁下面をじっくり見ることはないのではと思います。そんな馴染みの浅い桁下面には施工不良により生じたと思われる変状と金属部材の腐食が多く見られました。また、橋を支える役割を担う橋脚の基礎部分は流れてくる岩などの接触で洗掘が発生、本来なら埋まる筈の部分が露出していました。



写真 7 腐食が進行し、やや傷んだ金属部材



写真 5 平和橋 桁下面全景（国道側より）



写真 8 洗掘が進み基礎部分が露出した橋脚



写真 6 施工不良により露出している鉄筋

鉄筋の露出は施工時にコンクリートの練り混ぜが不十分だったために材料が分離し、脆くなったために起きた現象と推測されます。写真 6 の赤囲み部分が顕著ですが、よく見ると写真 5 の上半分にも同様の露出が見られます。この露出した鉄筋や表面が錆びついた金属部材は、ワイヤブラシなどで錆を落とし防錆樹脂を塗ることで損傷の進行を食い止めることができます。

橋脚の洗掘部分ですがオオサンショウウオの成体が入り込めるぐらいの隙間はあるように感じました。今すぐに対策が必要となるような規模ではありませんが、橋脚の洗掘が進行し橋が傾いたり倒壊するといった事例がある事から深さや幅などを一度調べたほうがよいのではないかと思います。

また、路面で発生していた土砂堆積の影響が橋の下に現れていました。排水柵に詰まった土砂が雨水などの影響を受け、管から押し出され橋の下に溜まっていたのです。特にハンザキ研側での堆積が深刻で橋桁の周りまで土砂に覆われている状況でした。



写真 9 排水管を通過し堆積した土砂



写真 10 橋桁に接触するほど堆積した土砂

橋の下は風通しが悪いうえ、日光が直接当たることがないため堆積した土砂はなかなか乾燥しません。写真 10 に映っている様な湿った状態の土砂が金属部材である橋桁に接触し続けると腐食が進行してしまいます。堆積した土砂を定期的に取り除く事で金属部材の腐食進行を遅らせることができます。

(ハンザキ研側の桁下面は侵入防止のフェンスがあるため近づくことができず、目視した際に土砂の除去ができませんでした...)

路面同様、定期的に清掃作業を行うことが橋の長寿命化につながるのではと思います。

「平和橋」の損傷が悪化して、供用できなくなってしまえば誰もがスムーズにハンザキ研を訪れることができなくなってしまいます。オオサンショウウオの未来を守る為にも「平和橋」の存在は欠かせません!!

私は、イベントやボランティア作業などでハンザキ研を訪れた際は「平和橋」の清掃活動も行おうと思っています。皆さんもハンザキ研を訪れた際は「平和橋」がどんな状態なのか、気にかけてみて下さいね。



写真 11 桁下面に作られたキロスズメバチの巣

随想

山椒魚を詠う (2)

会員 杉本征之進

山椒魚の国際交流も盛んになりましたが、俳句の国際交流も負けてはいません。

まず、日本にある俳句の大きな団体、俳人協会、現代俳句協会、日本伝統俳句協会が一つになり、国際交流協会を立ち上げ、外国との俳句の交流の窓口を一つに絞りました。

米・英・独・仏・伊ほか 17 カ国のハイク協会と提携を結んでいます。支部は 50 を超えています。これは大分昔の話で、現在ではもっと増えていると思います。発表作品には英訳、和訳を付けています。

芭蕉の「古池や蛙飛こむ水のをと」の句は世界の百カ国以上で愛唱され『奥の細道』は筆写されているようです。『奥の細道』の筆者には脱帽です。私も未だ『奥の細道』を筆写したことが有りません。

山椒魚一揆の咎はさらし首 征之進

湯原の旭川の支流、釘貫川の又支流に沿って付かず離れずに旧大山道があります。この旧大山道は、湯原に山椒魚の研究に来られた石川千代松先生が明治 31 年に津山から歩いて大平峠を越えてこられた道です。

私も一度石川先生の歩いてこられたこの旧大山道を歩いてみたいと思っていたので、頂上の大山峠まで歩いたことが有ります。

この大山峠までの中ほどに首なし地藏が祀られています。津山藩の圧政で百姓一揆(山中一揆)が起こり、53 人の百姓が打ち首になりましたが、この 53 名の内 13 名がこの首なし地藏の地に晒されました。この支流の川にも山椒魚がいますので、山椒魚もこの晒首を夜な夜な、見たのではないかと思います。

長考を解くはんざきの欠伸かな 征之進

水槽でじっと動かないでいる山椒魚を見てい

ると、何か考え事でもしているのかと思うことが有ります。きっと考え事をしていたに違いないと思いますが、この長考を解く時の大欠伸に些かの俳味を感じこの句が出来ました。実際の所は山椒魚に聞いてみなければ判りません。

はんざきの死せる水槽また覗く 征之進

かつて湯原のはんざきセンターに大きな山椒魚が居ました。その大きさは全長 150 センチ、体重 60 キロありました。名前は「りゅう」と言います。

この「りゅう」君が平成 26 年 8 月 13 日に亡くなりました。「りゅう」君の命日は私の誕生日と同じなので、何か因縁めいたものを感じて、寂しさは言いようありませんでした。

はんざきセンターに行く度「りゅう」君の居た円い大きな水槽を知らぬ間に覗いていました。

この「りゅう」君は中国産の山椒魚でしたが、死ぬる前にはあの大きな口をいっぱい開き、頻りに欠伸をしていたことを思い出しました。

急流は海まで十里山椒魚 征之進

かつて、日本海海岸沿いの砂浜に山椒魚の死体が打ち上げられていたことがあります。多分大山辺りの川から日本海まで山椒魚が流され、浜に打ち上げられたのではないかと思います。

こんなことも脳裏をよぎりこの句が出来ました。自分では山椒魚の句としてはいささか新しいのではないかと自負しています。

口開くるはんざきに舌なかりけり 征之進

山椒魚の特徴はあの大きな口と扁平な頭にあります。そしてもう一つの動作により、時には悪人にも善人にも見えます。

この山椒魚が口を開けると何とも言えぬ愛嬌があります。

ある山椒魚が口を開けた時に、舌の無い(*)のに気が付きました。当たり前と言えば当たり前のことですが、私には大きな発見でした。

随想

ハンザギの口の中

理事 栃本武良

ハンザギの名前の由来になった大きな口を開けると、小さな両顎の歯以外に上顎の奥に鋭い歯列が目につく。口蓋骨歯列と呼ばれるハンザギの武器の一つでもあり、丸呑みにできなかった大きな獲物を逃さぬための大切な働きをすると共に、繁殖期におけるオス同士のバトルに際して相手の四肢の指を咬み切ったりもする。前足 4 本（5 本持っている個体もあるが）、後足 5 本の指の数に欠損があるのは圧倒的に雄である。体のあちこちに生傷があるのは、繁殖期の 9 月を中心にした時期である。運の悪い時にはオスが喉か項にパッキリと大穴を開けて死んでいる。

上下の歯の数はそれぞれ 100 本以上あるがあまり目立たない。口蓋骨歯列には 40 本位の大きな歯が並ぶ。時々、メスの首切り死体も見つかるので説明に困るのだが、オスの準備が整っていなかったのか、単なる誤りなのだろうか？とにかくハンザギの行動にはいい加減なところが覗かれるので、なぞの多い生き物だと思う。

歯を通過すると舌がお迎えだが、一見すると杉本さんの句（前頁）にあるように、舌無しに見える（写真 1）。しかし、一方で高場さん（陶 s 工）の作品に見られる可愛いハンザギの焼き物にベロが見える（写真 2）。でも少々浮きあがり、こちらも細かい部分にこだわる“ハンザギ屋”からクレームが付けられる。

最近、刊行された“オオサンショウウオのまんが”（モコ著,KADOKAWA）が送られてきた。取っ付きにくいハンザギ道への入り口になる漫画と期待してざっと目を通して見たが、あちらこちらとやたらに“ベロがべろべろ”と出ているシーンが多数あって、これでは誤解を与えてしまいそうで残念だった（写真 3）。

ツイッターで可愛いハンザギとして人気があるそうで影響も大きいと考えて出版社へ感想を送っておいた。そんなに細かいことを言うなと言われそうだがいわずに済ませられなかった。せっかくの人気に文句をつけるのは気が引けたが、言わずに済ませることができない性なのだ。



写真 1 ハンザギの口の中



写真 2 高場作品



写真 3 モコさんのまんが

イベント報告

日本ハンザキ研究所 理事会・総会

平成 30 年 5 月 27 日 (日)

場所 日本ハンザキ研究所

理事会 11:00～12:00

参加者 理事 9 名 (内監事 2 名)

総会 13:00～14:00

参加者 会員 46 名 (正 34)

一般公開講演会 14:00～15:15

講師 山口建生 先生

題名 “知っておきたいマダニの話”

参加者 47 名

スタッフ 事務局員 12 名



総会議長の黒田副理事長の進行により、全ての議事が全会一致で承認され滞りなく終了しました。

引きつづき、一般公開講演会“知っておきたいマダニの話”の講演に入りました。マダニはこの地域周辺では、田、畑、山で日常的に誰でも出会う危険な虫です。マダニに噛まれると、大変怖い感染症にかかることが報じられ、その対策に高い関心が寄せられています。そのせいか、質疑応答の時間には様々な質問がありました。特に予防策は注目でしたが、現在のところ噛まれないことでしか防げないようです。

第 1 回朝来市民オオサンショウウオ夜間観察会

開催日 平成 30 年 7 月 21 日 (土)

場所 朝来町上岩津区公民館と区内円山川本流 (源流域)

参加者 32 名

スタッフ 15 名と高橋瑞樹 (バックネル大教授) と学生 3 名

オオサンショウウオ夜間観察会は、例年、朝来市教育委員会の助成を受けて行っているイベントです。しかしながら、地元、朝来市民のイベント参加者は極めて少ない状況が続いています。そこで、今回から、朝来市民にオオサンショウウオの生態をより深く理解していただき、豊かな河川環境やそれを育む後背地の自然とオオサンショウウオの保護保全に関心を持ち、地域の宝物として活かしていただける生活環境を作り出すことを目指して、今年から、朝来市の、各生息地域で実施することになりました。

上岩津区は、2 年前に生息調査を実施した場所です。数多くの堰が点在し、オオサンショウウオの移動を妨げており生息環境はあまり良くありません、しかし、その生息密度は非常に高く餌動物も豊富な川です。

今回のイベントは、地元の皆さまに、会場、観察場所、交通整理などの協力を得てスムーズな運営が出来ました。また、長期間黒川地域に滞在 (24 日間予定) し、地域文化に興味の高い、オオサンショウウオ環境 DNA 調査に来日している米国ペンシルベニア州バックネル大学の皆さんも観察会に参加してくれました。



第2回オオサンショウウオ夜間観察会

開催日 8月18日

場 所 日本ハンザキ研究所・市川支流長野川

参加者 27名

スタッフ 12名

再 捕 3匹

異常気象である好天の影響を受け、支流長野川の水量は極めて少ない。利用していると思われる巣穴も水上にむき出しとなっている。この影響か繁殖期も近づき行動も活発なはずのオオサンショウウオの姿が観察会現場付近では見られず捕獲に時間がかかった。



生野高校生とバックネル大学生の交流会

住友ゴムCSR基金(ひょうごコミュニティ財団)

開催日 平成30年8月2日(木)

場 所 日本ハンザキ研究所

バックネル大と生野高校生による国際交流を兼ねたオオサンショウウオの勉強会が行われました。生野高校から3年生4名、2年生2名とバックネル大から高橋瑞樹教授と学生3名が参加しました。高校生たちは慣れない英会話で戸惑いもあったようですが、相対的に和やかな雰囲気では有意義な時間を過ごしました。



ハンザキ研日誌【2018（平成 30）年 1 月～6 月】

1 月

- 5 日 ポンプピットの 1 号機取替工事（20 万円）
- 1 1 日 県立生野高校でハンザキの絵本作り指導（岡田）
- 3 0 日 姫路市辻井のハンザキをシンボルとするヤマダストア一視察（黒田、奥藤他）

2 月

- 1 7 日 関西電力のメーター外す。安い電力へ
- 2 0 日 新名神道路建設環境委員会の最終回（栃本）

3 月

- 4 日 伊丹市の丸山湿原で講演とカスミサンショウウオ調査、58 名（田口）
- 8 日 生野高校生にハンザキの授業（岡田）
- 1 4 日 メキシコよりハンザキ観察に Mrs. ナイジェリ 他来所、17 日まで
- 1 6 日 大阪府安威川ダム建設所事務局来所（岡田、栃本）
- 1 7 日 須磨水族園助成報告会（岡田）
- 2 3 日 岡田、麻布大夜間調査（2 個体チェック）
- 3 0 日 朝来市教育委員会へ 29 年度の報告（黒田、奥藤、栃本）

4 月

- 5 日 三重県川上ダム工事視察、ハンザキの救出作戦（岡田・栃本）
- 1 1 日 猪の子谷の取水施設修理完了（バルブ 2 個凍結破裂）
- 1 2 日 東京の林英一氏より子息のコレクション（漫画 3000 冊）受贈
- 2 1 日 京都大学浜中氏ほか 5 名夜間調査（15 個体測定うち 1 個体新規登録）

5 月

- 2 日 姫路市環境政策室津田氏ほか来所、今夏のイベント打ち合わせ
- 6 日 キノコの調査報告書作成会議（横山・宇那木両先生と）
- 1 6 日 ハンザキ夜間調査（岡田・京大院生と）14 個体測定うち 3 個体新規登録
- 2 6 日 田口ほか夜間調査 15 個体測定うち 3 個体新規登録
清水会員、白口川夜間調査、3 個体測定
- 2 7 日 第 10 回通常総会
公開講演会、県立人と自然の博物館山内健生博士（ダニの話）
- 3 0 日 トライやるウィークで中学生 1 名（栃本）

6 月

- 2 日 日本工科大学校実習、（岡田）石めぐりでハンザキ 3 個体捕獲
- 1 5 日 朝来市長と市議会渕本議長へ日本オオサンショウウオの会 2020 年度開催について要望書提出
- 2 1 日 豊岡市立建屋小学校 1・2 年生 10 名来所（栃本）
- 2 4 日 NPO 法人地域再生研究センター総会に出席（栃本）

編集後記

今年の紅葉は十分に楽しめましたでしょうか？

山々の織り成す雄大な錦は心を豊かにさせますが、イチョウの黄色やモミジの赤は本当に綺麗で心を刺激しますね。でも、そんな紅葉も旬は割合短くてまた来年の感動を期待することになってしまいます。

山茶花（サザンカ）が咲き誇り、生野メインホール周辺に生野イルミネーションが灯る時期になって「あんこう」を発行することになりましたこと、会員の皆様はもとより期限内に投稿していただいた方々に深くお詫び申し上げます。

編集長 増子 善昭





平成 30 年 9 月 30 日 発行

特定非営利活動法人

日本ハンザキ研究所

〒679-3341

兵庫県朝来市生野町黒川 292

TEL・FAX 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

HP: <http://www.hanzaki.net>

